## 2014年3月10日(月曜日)の読売新聞に 被災地支援の模様が紹介されました。

げ機をセットし、パンやレ たプロパンガスボンべと揚

モンドーナツを揚げ始め

と笑顔を見せた。

2014年(平成26年)3月9日(日曜日)

れきこそなくなったもの の本社を出発。被災地はが の車に分乗して那須塩原市 の、被災者の多くが仮設住 被災地に揚げたて 行は午前6時半、2台

パン・アキモト 支援活動仙回

女川町の町民野球場仮設住

宅に着くと、広場で持参し

町と石巻市を訪れ、仮設住宅など3か所を回って揚げパンやド 製パン業「パン・アキモト」 た。8日も秋元義彦社長(6)ら社員とその家族7人が宮城県女川 ナツなどを無料配布した。その活動に同行した。 東日本大震災の発生直後から被災地での支援活動を続けている (那須塩原市)の活動が40回を超え



揚げたてのパンや、パンの缶詰を食べる被災者ら(8日、石巻市八幡町で)

ると、お年寄りや子供たち は「揚げたてはおいしいな」 を超える佐藤清志さん(63) た。 仮設住宅暮らしが2年 が一人、2人と集まって来 ランティアで参加する。こ が3回目、入社間もない中 の日は、関西営業所(大阪 市)の白浜康太郎さん(27) ったのは午後9時を過ぎて 約50人の社員は休日にボ ら災害公営住宅への入居 に2年は続くとみられる が始まるが、被災者の仮 ると、女川町では来月か 設住宅暮らしは今後さら の伊東綾さん(43)らによ

80袋、レモンドーナツ6 げパン500個、ラスク4 同社製パンの缶詰も配っ ンなどを揚げ、備蓄用の 市新栄の仮設住宅でもパ 興支援センター「お茶っ 個に上り、那須塩原市に戻 00個、パンの缶詰300 た。3か所での配布は、揚 こはうすオアシス」と同 石巻市八幡町の地域復 機構東北事務局(仙台市) NGO日本国際飢餓対策 れあえて貴重な体験ができ 人は「被災地の人たちとふ

るまでは支援を続けたい」 と力を込めた。 のボランティアも減ってい た。秋元社長は「せめて多 くの被災者が仮設住宅を出 被災地では、被災者支援 同社の活動に協力する